

ごあいさつ

皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに平成29年度中間期（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）の営業の概要と決算の状況につきまして、ご報告申し上げます。

当中間会計期間におけるわが国の経済は、米国や中国を中心に海外経済が堅調に推移する中、輸出の増加基調が継続し、生産が回復傾向を辿りました。また、設備投資の回復や個人消費の底堅い推移から、景気は緩やかな回復基調を続けました。

このような経済状況のもと当行は、平成27年4月から平成30年3月までの3年間の計画期間とする経営強化計画「プランフェニックスⅣ」に基づき、「靴底を減らす活動」、「雨でも傘をさし続ける銀行」、「謙虚さのDNAを忘れない銀行」の3つをモットーとして、お客様の本業支援や経営改善支援により、お客様の価値向上につながる「お客様応援活動」をビジネスモデルの中核に据えて取り組んでまいりました。

平成29年度中間期においては、お客様の本業支援では、販路拡大や商品の紹介等のビジネスマッチングや群馬大学や前橋工科大学との共同研究支援、関東経済産業局・中小基盤整備機構などと連携したもののづくり補助金など各種補助金申請アシスト、大手企業との技術連携紹介、大手工業系・大手食品系パイヤーとの個別商談会、当行主催による初の手工業系企業との川上・川下マッチング事業の開催、また、大手企業を退職した専門知識のある人材をお客様に紹介する「新現役交流会」の開催、「東和農林漁業6次産業化応援ファンド」を活用した成長産業化支援など、お客様の売上増加や経営課題の解決に繋がる提案活動に取り組んでまいりました。

地元大学では、この他にも地域における人材育成の一環から、役職員が経済の状況や地域金融機関の社会的役割などについて、現場の視点を踏まえた講義も毎年行っております。平成29年では2月に群馬大学で連携授業、4月から高崎経済大学で寄附講座、7月には放送大学において面接授業を開講いたしました。

また、お客様のビジネスチャンスを広げるために、筑波銀行、栃木銀行との共同商談会の開催など、お客様のビジネスマッチングを積極的に実施してまいりました。

海外進出支援では、58ヶ国37機関との海外ネットワークを活用した各種情報提供や業務提携先と連携した取組みを行うとともに、お客様に対して国際協力機構（JICA）と連携した支援事業の申請支援や国際協力銀行（JBIC）との協調融資制度を提案するなど、外部機関との連携を強化・拡充して積極的にサポートしてまいりました。

経営改善支援では、経営改善計画の策定支援や経営指導などコンサルティング機能の発揮に努めるとと

もに、中小企業再生支援協議会、地域経済活性化支援機構など外部専門機関の知見やサポート機能の活用を積極的に行っております。取引先企業の経営状況に応じて、より適切な事業性の評価に基づいた、実効性のある抜本的な事業再生支援にも取り組んでおります。

このように「お客様応援活動」を展開した結果、平成29年度中間期の預金残高は、前年同期比743億円増加の1兆9,629億円、貸出金残高は、同380億円増加の1兆3,914億円、事業性貸出先数は、前年同期比784先増加の15,416先となりました。

平成29年度中間期の収益状況につきましては、コア業務純益65億円、経常利益72億円、中間純利益は52億円を計上することができました。

群馬県と埼玉県の2つの無尽会社を起源としている当行は、庶民金融機関としてのDNAを大切にしたいという思いから、無尽会社として設立された年を創立としており、平成29年6月に創立100年を迎えることができました。

今後も当行は、「お客様応援活動」を徹底することにより、お客様や地域とともに「共通価値の創造」の実践に取り組んでまいりますので、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成30年1月

株式会社 東和銀行
代表取締役頭取

吉永國光